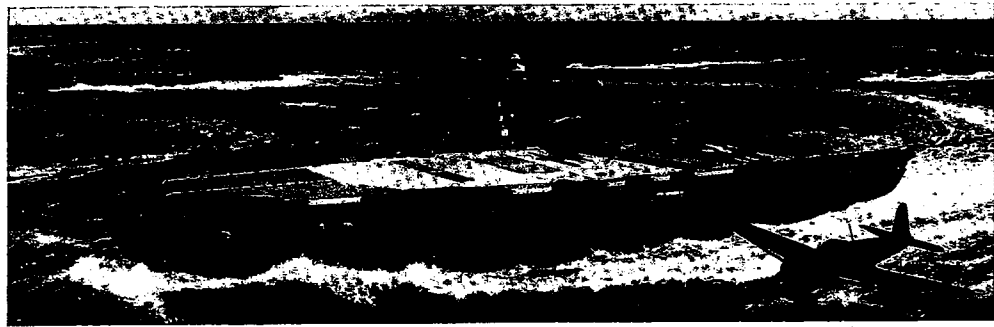
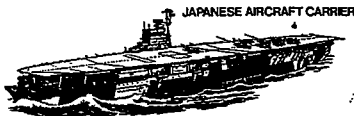


ZUIKAKU 瑞鶴

ウォーターラインシリーズ NO.214 航空母艦(ずいかく)



WATER LINE SERIES

航空母艦瑞鶴について

各国の主力艦の保有量を制限していたワシントン、およびロンドン条約の効力が切れたことで日本が海軍力の増強を始めたのは第二次大戦が始まる2年前の昭和12年(1937年)のことでした。この増強計画は急計画と呼ばれ、戦艦大和、武蔵と空母瑞鶴、瑞鶴の建造がその中心となっていました。瑞鶴の建造は昭和13年5月25日、神戸の川崎重工で始まり、昭和16年9月25日に竣工しました。船体は25,000トン級、16万馬力という日本軍艦としては最高の出力と洗練された船体形状で34ノットの高速と優れた機動性を発揮。建造時の工程は大和、武蔵よりも10日以上も多かったといわれています。搭載機は戦闘機、爆撃機、攻撃機72機に補用12機を加えた計84機。条約による景観上の制限が無くならず、戦艦から設計変更された赤城、加賀や排水艦に条約の制限を受けた中型空母の蒼電、飛電に比べて性能のバランスのとれた理想的な空母といわれ、当時の世界の水準から見ても最高レベルの強力な空母として登場したのです。

瑞鶴が連合艦隊に加わった昭和16年の秋、日本はすでにアメリカ、イギリスとの開戦、つまり同年12月の真珠湾攻撃に向けて動き出していました。最新鋭の空母として期待されていた瑞鶴は1ヵ月前に竣工していた姉妹艦の翔鶴とともに第5航空戦隊に編入されて訓練艦に就き、12月8日の真珠

湾攻撃に臨むのです。年が明けて17年4月、セムロン島沖海戦では瑞鶴を派遣した爆撃機隊は僚艦翔鶴の爆撃機隊と共にイギリス空母ハームスを爆撃して撃沈します。続く5月の珊瑚海海戦は歴史に残る戦いとなりました。アメリカ機動部隊との間に史上初の空母対空母の戦いが行われたのです。瑞鶴は翔鶴とともに空母レキシントンに撃沈し、空母ヨークタウンを大破させましたが、翔鶴は命中弾を受けて中破。瑞鶴は損傷は重なりましたが、翔鶴とともにいったん戦列を離れることとなりました。ところがこの間に戦争の流れを変える大きな出来事があります。6月のミッドウェー海戦で連合艦隊は空母4隻をいっぺんに失ったのです。これで瑞鶴の存在はさらに重要なものとなり、まさに「虎の子」となった瑞鶴には新たな装備なども優先的にまわされるようになりました。対空用レーダーといった新装備も他に先がけて整備され、8月には翔鶴とともに戦線に復帰。第二次ソロモン海戦、10月の南太平洋海戦と転戦します。しかしミッドウェーでの敗戦は大きく、日本海軍の劣勢は次第に目に見えるものとなっていきます。

さて、開戦から主な海戦を共に戦ってきた瑞鶴と翔鶴ですが、翔鶴が何度も損傷してきたのに対し、瑞鶴はなぜか無傷で「最も幸運に恵まれた空母」などと呼ばれてきました。しかし昭和19年6月のマリアナ沖海戦で瑞鶴は爆弾1発を受けて初めて傷つきます。この海戦で瑞鶴はついに沈み、日本の敗色はいよいよ濃くなっていきます。そして昭和19年10月、太平洋の重要な拠点フィリピン、レイテ湾に上陸しようとする大部隊を繰り出したアメリカに対し、日本海軍は連合艦隊の総力を結集して最後の艦隊決戦を挑みます。そのために立てられた捷一号作戦は、瑞鶴ら空母を中心とした小沢艦隊を「おとり」としてフィリピンに向かわ

せてアメリカの機動部隊を北におびき出し、守りが手薄となったレイテ湾の輸送船団の中に大和、武蔵らの戦艦を中心とする栗田艦隊が突入するというものでした。しかし小沢艦隊の搭載機はわずかしかそろわず、栗田艦隊には空からの援護が全くつかないという絶望的な状況の中で、瑞鶴は空からの攻撃に備えて甲板に迷彩を施し、対空ロケット弾を発射する12センチ28連装噴進砲をはじめとして対空兵器も大層に強化。さらに船体には対潜水艦用の濃淡2色のグリーンを迷彩を施してこの戦いに臨みました。そしておとり作戦は見事に成功し、栗田艦隊はレイテ湾に向けて突入を始めた。しかしレイテ湾を目前にして栗田艦隊はなぜか反転し、作戦の失敗を知らぬまま戦い続けた瑞鶴は魚雷8本、爆弾7発を受け、10月25日、フィリピン沖に姿を消しました。そしてこれが日本海軍が誇った連合艦隊の事実上の最後でもあったのです。モデルは最終状態の瑞鶴を再現しました。

〈瑞鶴主要々目〉

- 基準排水量: 25,675トン
- 全長: 257.5メートル
- 水線長: 250メートル
- 飛行甲板長: 242.2メートル
- 対空兵器: 12.7センチ連装高角砲8基
- 25ミリ3連装機銃20基
- 12センチ28連装噴進砲8基

艦種について

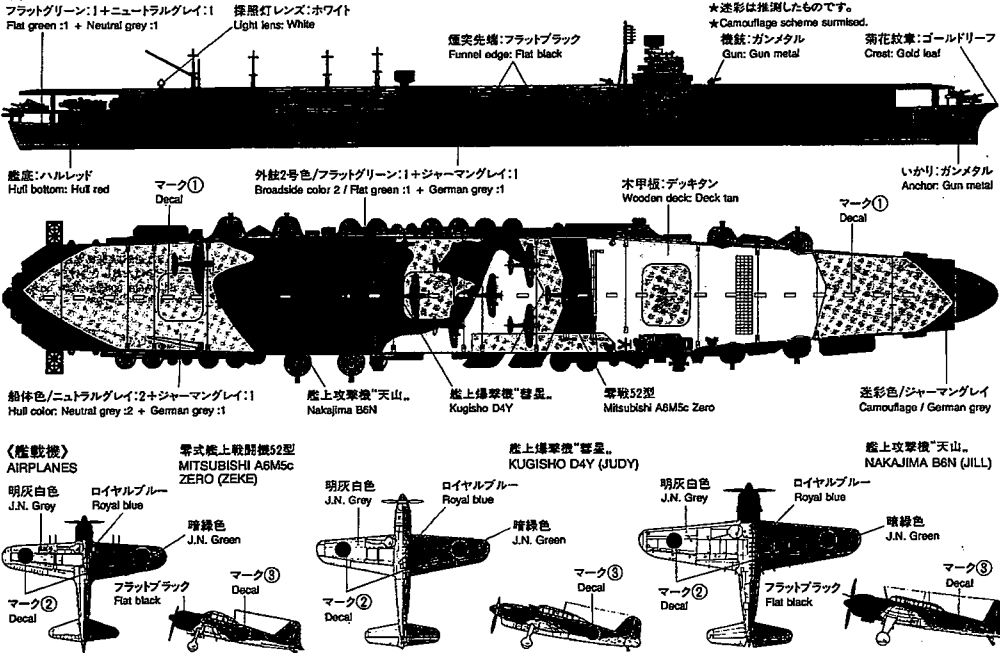
イストレーション 上田敏八郎
連合艦隊最後の戦いとなった捷一号作戦において、アメリカ艦隊を発見し、攻撃をかけるべく搭載機を次々と発艦させる瑞鶴です。手前には既に発艦した零式艦上戦闘機52型、後方には僚艦、瑞鶴が見えます。瑞鶴の迷彩塗装は開戦以来の武蔵艦であることを誇っているかのようです。

In preparation for the Pearl Harbor attack, scheduled for 8 December 1941, The Zuikaku and Shokaku exceeded every standard set for conventional Japanese aircraft carriers, and it is said that the navy waited for the completion of these carriers before finalizing plans for the proposed attack. Following the successful attack on Pearl Harbor, the Zuikaku participated in the Ceylon operations where her bombers sank a British aircraft carrier. In May 1942, the Zuikaku, along with Shokaku, participated in the Battle of the Coral Sea. Although the operation resulted in the sinking of the U.S. carrier Lexington, Shokaku suffered damage, and it was decided that the fleet be returned for maintenance and repairs. During their absence, the Japanese Navy suffered severe losses and casualties at the Battle of Midway, which eventually led to the downfall of the Japanese naval power. The Zuikaku, after making a comeback to front line operations, continued her tedious mission in the South Seas, and was active unscathed until hit by a bomb in the Battle of the Marianas. Her last mission was the participation in the Philippines operation near the Leyte Gulf, where she was sunk by 8 torpedoes and 7 bombs hitting her gallant career with the Japanese Navy.

- ★左舷の迷彩はパッケージを参考に下さい。
- ★Refer to boxside artwork for port hard (left).
- ★迷彩は推測したものです。
- ★Camouflage scheme surmised.

loped and improved their carrier design expertise through completion of the Ryūjō, Akagi and Kaga carriers. The treaty produced medium carriers Soryu and Hiryu were also being constructed during the same time frame as the Zuikaku and Shokaku were being built. Freed from all imposed treaty limitations, the Zuikaku was designed as a 25,000 ton class vessel with 8-bomber powerplants, yielding a maximum of 160,000 horsepower. Combined with the awesome power was a highly advanced and sophisticated hull, with a Yamato battleship type bulbous bow that enabled a top cruising speed of 34 knots. The carrier was engineered to resist direct hits over the engine and ammunition storage rooms, plus it carried torpedoes built armor for the best possible protection. She could carry a total of 84 aircraft consisting of fighters, bombers, attack aircraft, and auxiliary planes. Upon commissioning with the Japanese Combined fleet in autumn of 1941, the Zuikaku joined the 5th Air Fleet along with her sister ship Shokaku which was completed a month earlier. The aircraft carrier units of that time consisted of two carriers escorted by several destroyers. The 5th Air Fleet was young and inexperienced, and therefore underwent an extensive training program

PAINTING



ZUIKAKU 瑞鶴

★お買い求めの際、また組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良品、不足部分などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお接着剤は別にお買い求め下さい。

READ BEFORE ASSEMBLY.
 ★Remove parts from sprue using a cutting tool.
 ★Use plastic cement & paints only (available separately).
 ★Use cement sparingly and ventilate room while constructing.

